

ウィンターカップ2017静岡県予選大会展望

文：中島 洋己

((一社) 静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭)

第70回全国高校バスケットボール選手権大会(ウィンターカップ2017)静岡県予選が平成29年10月21日に県内高校体育館で開幕する。11月12日に静岡県武道館で行われる決勝戦の勝者が12月23日に東京体育館で開幕する全国選手権大会への出場権を獲得する。今年から大会の名称が「選抜」から「選手権」に変わり、名実ともまさに高校バスケット最高峰となったこの大会、栄冠をつかむのは果たしてどのチームなのか今から興味が尽きない。

【男子】

ここ数年、4強と呼ばれた沼津中央、浜松学院、藤枝明誠、飛龍に浜松開誠館を加えた上位5校がしのぎを削る優勝争いが続いていたが、今年は県新人・県総体を制し、福島インターハイでも市立船橋、桜丘と強豪を次々に破りベスト8入りした飛龍が頭一つも二つも抜け出した感がある。今年はこの飛龍の快進撃を止めるチームがあるのか、それとも県内無敗のまま東京体育館まで突っ走るのだろうか。

飛龍は、身長は決して高くないが個々の能力を生かしながら絶妙な合わせで相手ディフェンスを翻弄していく攻撃スタイルが持ち味。分厚い選手層のもと、粘り強いディフェンスからのブレイクで素早い展開に持っていき勝利を積み重ねてきた。特にインハイ・市立船橋戦、桜丘戦の後半に見せたオールコートプレスから相手のミス誘発させ、嵐のような猛攻を仕掛けるスタイルは圧巻の一言に尽きる。「ミスター・3P」の異名を持つエース・伊東潤司は文字通り、勝負所で連続して放たれる伝家の宝刀・値千金の3Pが魅力。インハイ・高松商業戦では3P8本を含む33得点、まぎれもないチームのスコアラーである。1on1にも絶対の自信を持ち、相手に体を密着させシュートまで行かせない鉄壁のディフェンスもトップレベル。まさに今大会ナンバーワンの注目選手である。関屋心は個人技に優れ、爆発的な跳躍力と強気なドライブでカットインして、相手ファウルをものともしないバスケットカウントで観客を魅了する。インサイドの奥村大翔はインハイ、そして東海国体で対戦、マッチアップした桜丘の留学生ジャイニャ・クルに対し、身長差15cm、完全なミスマッチ状態ながらも体を張ってディフェンスし、ビッグマン対応のお手本を見せてくれた。同じくインサイドには中国人留学生、191cmリュウハヤオ。そして他にも左腕骨折から復帰、粘り強いリバウンドや鉄壁のボックスアウトなどディフェンスからリズムを作っていく松下裕汰、攻撃の起点となり、時にはゴール下で最後の砦となる杉山裕介、プレイングタイムは短いが要所で起用され得意の3Pをきちんと決める仕事人・西尾昂也、そして金井星也はドライブで相手を崩し、伊東にゴールを射抜かせるプレーを得意とする。日本人1年生唯一インハイでベンチ入りした高須崇介や、同じく1年生でどのポジションも器用にこなす色山輝などタレント揃いの戦力を誇る。チームが信条とする「しぶといバスケット」を今まで通り展開できれば11年ぶり、そして原田裕作監督就任8年目にして初のWC出場はおのずと近づいてくる。

「ストップ・ザ・飛龍」の一番手は昨年のWC県予選覇者、そして福島インターハイにも出場

した**浜松学院**だろう。県新人・県総体とも飛龍に敗れ準優勝。この大会に打倒・飛龍の目標を掲げ雪辱を誓う。もちろん注目はチームの得点源、**ダシルバヒサシ**。高い身体能力を誇り、相手との間合いを取ったジャンプシュートは絶妙。最近では相手にも研究されフェイスガードで密着されることも多いが、キレることなく冷静に対応し広いシュートレンジを利用してシュートを放つ場面や、時には味方にバスをさばく場面もよく目にする。一昨年、昨年と県武道館でダンクシュートにも挑戦。今年、自身最後の県武道館では是非ダンクを成功させ、見る者に夢を与えて欲しい。そしてもう一人忘れてはならないのが**石川晴道**。チームの司令塔でアウトサイドの魔術師、度胸よく放たれるシュートは美しい放物線を描きリングに吸い込まれていく。長距離砲だけではなくスピードあるドライブも得意とし、東海国体決勝・愛知県戦では3 P 6本を含む29得点、ダシルバとともに愛媛国体出場の立役者となった。攻守ともに高いパフォーマンスを見せる文字通りチームの中心的存在である。他にも、速攻を得意とする**亀山憧弥**、ドライブの切れ味が増した**葉山大誠**、3 P、ドライブともにそつなくこなす**谷口夏樹**、ゴール下に切れ込んでリバウンドをもらい得点を重ねる**小池玲史**、個性派ぞろいのチームをうまくまとめる主将・**岡村泰知**、1年生ながら185 cm・長身の**丁振華**、そして創部以来初の留学生・195 cm中国出身の**陳相廷**などを擁し、飛龍を倒してのWC連続出場に向けて勇往邁進する。

県総体3位の**藤枝明誠**はドリブルやパス回しでスペースを作り24秒を有効的に使って攻めるパターンと、走るファストブレイクバスケットを併せ持ち、内外バランスよく攻める多彩な攻撃力を持つ。チームの核弾頭・**高木卓也**はアウトサイドシュート、リバウンドセンスに優れ、さらに卓越したキャプテンシーを持つチームの柱である。鋭いドライブを得意とする**中坪崇斗**、リバウンドからの速攻を駆使し、時には司令塔も任される**浅見晴**、広い視野と華麗なパスワークでチームに貢献する**中村和磨**などで外まわり・中盤をつなぎながらゴール下には空中戦を得意とする留学生たちが待ち構える。来日3年目、ゴール下の防波堤としてチームに勝利をもたらしてきた200 cmの**張新鋒**と県内最高身長206 cm、来日直後の怪我も完治し県総体決勝リーグでデビュー、たぐいまれな能力を発揮したマリ人留学生**セコウ・ドゥクレ**をオンザコートワンルールのもと状況に応じて交代で起用しつつ、高さでは他のチームの追随を許さない。**角野俊伍**、**富永優也**、**丹藤和輝**、**オマール・ティジャン・チュヌ**など将来性のある新戦力も補強し、3年ぶりのWC出場に照準を定める。

県新人で昨年のWC覇者・沼津中央を破り、県新人、県総体と連続4強入りした**浜松開誠館**も優勝候補の一角である。エース・**田中勇樹**は美しいフォームから放たれる正確なミドルシュートが切り札、攻撃の起点としてもチームを支える。ロングシュートを武器とする**神田誠仁**は怪我の影響から一時調子を落とした時期もあったが現在は復調、田中とともに国体選手にも選ばれており、十分なキャリアをチームに還元し勝利にもすることだろう。その他、ドライブがさらに切れ味を増した**松本うみ**、得意のジャンプシュートだけではなく決勝リーグの浜学戦で見せた、吸い込まれるような3 Pにも磨きがかかった**伴拓実**、リバウンドを支配し確実に得点に結びつける**川邊隆景**、そして要所で決まる3 Pが心強い**佐原和樹**など、他の上位チームにひけを取らない厚い選手層で初優勝を狙う。

一昨年の覇者、昨年は決勝戦で辛酸を舐めた**沼津中央**はやはり大黒柱・204 cmのセネガル人留学生・**サンブーアンドレ**の出来がすべてを握る。昨年の決勝戦で悔しい思いをして以来、なかなか本来のプレーが出来ず本人としてもフラストレーションのたまる日々を過ごしてきたであろう。その中でも8月の東海国体決勝・愛知県戦では今までにない献身的なプレーで勝利に貢

献、一味違ったプレイスタイルを見せてくれた。主将でもありアウトサイドからの得点源でもある**渡辺僚**を始めとするチームメイトがサンプーの支えとなり、彼に気持ち良くプレーさせるような環境を整えていけば、準々決勝で対戦が予想される宿敵・飛龍の一戦も最後までどちらが勝つかわからない熾烈な戦いとなるはずだ。今まで何度となく対戦してきた宿命のライバル同士の「名勝負数え歌」はこの大会を大いに盛り上げていくことになるだろう。

そして今大会ダークホースとなりそうなのが**静岡学園**。県8強の常連ではあるが、ここ最近では分厚い4強の壁に跳ね返され続けてきた。そのような状況が続く中、今年は県内日本人最高身長205cmを誇る**市川真人**が加わり、長年チームの課題であったインサイドが格段に強化された。今年で48年の歴史を誇るこの県予選において県内出身選手としては最高身長、そして現在日本を見渡しても彼ほど背の高い日本人高校生プレイヤーは見当たらない。それほど逸材であり、まさに静岡県バス界の宝でもある。バスケのキャリアはまだ短く現在も成長過程だが、長い目で見守り今後の成長と活躍を楽しみに待ちたい。準々決勝では浜松学院との対戦が予想され、厳しい戦いとなるであろうが、司令塔・**石部歩希**や今大会参加の日本人では市川に次ぐ長身191cm**柴田祐希**など貴重な戦力をうまく使い、8年ぶりの4強を目指したい。

ともに県総体で8強入りした浜松西と浜松工業も虎視眈々と4強入りを狙う。**浜松西**は昨年の県総体から現在4大会連続県8強入り、まさしく公立の雄となった。戦力的にも**刑部克輝**、**玉木健太郎**、**高橋駿**、**花田竜輔**など豊富な戦力を誇り、19年ぶりの4強入りへ準備万端である。同じく**浜松工業**も今年の県新人、県総体と連続8強入り、大会のたびに順位を上げ続けている。経験値のある3年生に加え、188cmの長身センター・**山村吏玖**や1年生・**大滝龍二**など戦力は充実しているだけに、12年ぶりの4強を目指しさらなる飛躍を期待せずにはいられないチームである。

注目選手に目を移すと上記以外では、**井村飛美希**・**福本海成**（伊豆中央）、**川村航平**・**田中修平**・**寺崎竜也**（加藤学園）、**三浦秀成**・**須藤士恩**（星陵）、**鈴木隼剛**（清水東）、**加藤由弘**・**松田光平**（静岡）、**五十嵐貴大**（静岡商業）、**小林卓真**・**大池隆太郎**（静岡東）、**小澤優太郎**（静岡市立）、**木下真之介**（藤枝東）、**岡島真乃介**（浜松湖東）などが挙げられる。いずれも県内を代表するまさにトップアスリートたちばかりである。

最後に今大会は**菊川南陵**が3年ぶり、**御殿場西**が6年ぶりに出場するが、男女通じて唯一の初出場となるのが**浜松聖星**。女子は言わずと知れた強豪校。今春共学化と同時に男子部を創部、すでに総体西部予選で公式戦初勝利を挙げている。今回WC県予選の初舞台で、「県大会初勝利」を挙げる事が出来るか、こちらも注目したい。

【女子】

昨年の展望で「群雄割拠」と綴ったが、今年は現在県大会4連覇中、昨年28年ぶりに出場したWCで堂々ベスト8入りした浜松開誠館が他を大きく突き離し、独走態勢に入ったと言っても過言ではない。

浜松開誠館は、県総体決勝リーグ3試合すべて20点以上の大差をつけて大勝、相手を寄せ付けない強さで女王の貫録を見せた。粘り強いディフェンスで体を張り、リバウンドからの速攻で得点を重ね、ロースコアのゲームに持ち込んで勝つバスケットが特徴。多彩なチェンジングディフェンスを持ち、ルーズボールなど球際のプレーも全員が徹底して心掛けている。エースで司令塔の石田悠月は全国的にも注目選手である。ドライブの切れ味、3Pの正確さ、1on1の強さは言わずもがなだが、高速ドリブルからリズムを作り出し、ディフェンスのズレを巧みに使って一気に相手を抜き、ファウルされてもそのままバスケットカウントを決めるフィジカルの強さで相手を翻弄する。また相手マークが自身に集中していると見るや素早くパスを回し、アシストに徹することも出来る。今大会でも厳しい執拗なマークが予想されるが、的確な判断力と卓越したゲームコントロールで得点を重ね、目標である連覇の原動力となってくれるであろう。また鈴木侑も連覇へのキープレイヤーである。10月にインドで行われるU-16アジア選手権日本代表にも選ばれ、日の丸を背負ってプレーした経験がこの大会にどう生かされるか注目したい。高精度の3Pを武器とする石牧葵は得点力あるフォワードとして勝利に貢献する。樋口栞帆はスピードあふれるセンターとしてリバウンドとブロックショットに活路を見出すプレーヤー。その樋口をゴール下で1年生の松岡木乃美が助ける。大西莉央は全中出場の実績を持ち、得意のドライブからのレイアップに加え3Pも果敢に打てるようになった。1年生では唯一県選抜に選ばれ、東海国体・愛知県戦では堂々のスタメン出場を果たした。このような充実した戦力で挑んだ8月の全日本選手権第一次ラウンドでは大学、クラブ、実業団を次々に撃破、初出場で見事県代表となった。チームとしての円熟期を迎えた今、昨年4月の総体西部予選から続く県内試合30連勝をどこまで伸ばすことが出来るか注目したい。

浜松開誠館の連覇を阻止するチームを挙げるとすれば、県総体決勝リーグを戦った東海大静岡翔洋、市立沼津、常葉大常葉、そして昨年のWC県予選、県新人、東海新人で浜松開誠館と激闘を繰り広げた駿河総合を挙げたい。

東海大静岡翔洋は中部5位で臨んだ県総体、快進撃で勝ちあがり決勝リーグでも得失点差で準優勝、初のインターハイ出場を勝ち取った。晴れ舞台では緊張のあまり動きが硬く市立前橋相手に初戦敗退となったが、強豪相手に大いに善戦をした。速攻、アーリーオフェンスなど走って地道に得点を積み重ねていくチームで、主将・糟谷栞里は抜群の統率力でチームを牽引、チームで唯一県選抜にも選ばれ個人技にも長けたプレーヤーである。野田夢佳は味方からのスキップパスを受け、落ち着いて正確に3Pを決めるシューターであり、当たり負けしないフィジカルが強み。また下級生に目を移せば増田優真は勇往果敢に仕掛けるドライブが魅力、スピードあふれるプレーでチームの先陣を切る。鈴木彩夏は怪我でインハイ欠場を余儀なくされたが、ポストプレーや3Pに見るべきものがあり、今後の成長が楽しみである。川村菜摘は1年生ながらインハイでスタメン出場し3P3本を含む15得点。数字だけでなくこの時期に貴重な経験を積んだことがこれから生かされていくに違いない。もちろん優勝候補の一角ではあるが、まずは準々決勝で予想される藤枝順心との試合をきちんと乗り切ることに全力を注ぎたい。

得失点差で惜しくもインハイを逃した**市立沼津**は雪辱を期す大会となる。元来スロースターターなチームではあるが、基本に忠実なディフェンスが徹底されていて、そこからブレイクに糸口を見出すバスケットが信条。ポイントゲッターの**杉浦雅**は3 Pと華麗なポストプレーが持ち味。好不調の波が多少あるがまだ2年生、これから軌道修正していくであろう。**遠藤真帆**は172cmの長身を生かしながらスピードあるドライブも器用にこなす。このWエースに加え攻撃の起点となるのが**飯田帆乃香**。主将として泥臭いプレーに徹し、**滝口美里**とともにチームを支えている。4回戦・県武道館行きを賭けて駿河総合との対戦が予想される厳しいブロックに入ったが、県総体の悔しさをバネに目指すは7年ぶりのWC出場しかない。

2度の5連覇経験のある**常葉大常葉**にとっては2年ぶりのWC出場を狙い背水の陣で臨む大会となる。中部総体6位から一気に県総体決勝リーグまでたどり着いたが東海大翔洋を倒しながら得失点差で涙を呑んだ。一昨年のこの大会での優勝以来2年間県大会優勝から遠ざかっており一丸となって優勝を狙う。ドライブ、ミドルからのジャンプショット、そして3 Pと恵まれた体を生かしてオールラウンドなプレーが出来る**野本陽香**、1 on 1に絶対の自信を持つ**井上麗**、ドライブの突破力に秀でる**山地菜月**、積極的にプレッシャーディフェンスを仕掛ける**渡邊侑季**、怪我から復帰した司令塔・**北村音緒**、1年生ながらスタメンを堅持し6月の開誠館戦ではチーム最多の19得点を奪った**保坂悠月**、そしてチームの精神的支柱である**山下あい**など百戦錬磨のつわものが揃う。目指すは浜松開誠館を倒しての優勝しかないであろうが、その前に浜松聖星・沼津中央など一筋縄ではいかない強豪相手が待ち構える。歴代最多16回の優勝を誇る伝統校の意地をこの大会でも見せて欲しい。

ある意味、**駿河総合**はどのチームよりもこの大会に賭ける思いがあり、本来浜松開誠館の連覇を阻止する一番手に挙げられるべきチームであろう。昨年の決勝戦では惜しくも敗れはしたが浜松開誠館と大会史上に残る名勝負を繰り広げた。県新人決勝、東海新人3決でも浜松開誠館を土俵際まで追い詰め、互角以上の戦いを展開した。中部予選優勝で臨んだ県総体は2回戦で常葉大常葉の鬼のような執念に惜しくも屈したが、実力的には今大会優勝しても全くおかしくないだけの戦力を十分に持つ。**小山内パメラウーゴ**を中心にチーム一丸で粘り強くオフェンスリバウンドを奪い、セカンドチャンスを実実に得点に結びつけるスタイルが持ち味で、東海国体でもスタメン出場したエース・**長嶋アンソニー真弥**は1 on 1が非常に強く、インサイドやミドルで多彩なシュートを放ち得点を重ねる。**野村茉由**はドライブ、ゴール下でのプレー、3 Pなどどのような形からも得点に結び付けられるユーティリティープレイヤーである。身長176cmの**寺尾友里**は内外どこからでも攻撃の軸となり、守備でもゴール下の砦としてチームに貢献する。その他インサイドプレーを得意とする**西尾優香**、正確な3 Pを放つ永石華萌、県内最高身長177cm**加茂恵**、そして大怪我を克服した**勝又亜梨沙**など充実した戦力を武器に前回大会と県総体の雪辱を胸に期し、まずは4回戦で対戦が予想される県総体3位・市立沼津との戦いに挑む。昨年は準々決勝で対戦、熱戦の末駿河総合が勝利を収めた黄金カードが今年はなんと県武道館決戦の前に実現する。一瞬たりとも気が抜けない、そして私たちも最後まで目が離せない試合になること請け合い、まさに今大会屈指の好カードである。駿河総合はこの試合を何としてでもものして一気に悲願の初優勝に向かって突き進みたい。

県総体ベスト8のチームに目を移すと、**藤枝順心**は県総体ブロック決勝で市立沼津に延長戦の末惜敗。県総体、県新人とも4強入り経験もある実力派チームだか、地元・藤枝市をメインに開催するこの大会だけ4強入りの経験がない。昨年県選抜に選ばれた**杉本ちひろ**は得意の1 on

1や度胸のある3Pでチームを牽引する。長身173cmの**内海遥**、中盤の得点源・**滝澤有希**、キレのあるドライブが魅力の**柴田珠り亜**、ケガを乗り越え見事復活した**駒形伊恭**、成長著しい**山藤うらら**など戦力的には十分に4強を狙えるものを持つ。4回戦では初の県武道館進出を狙う新興勢力・島田の挑戦を受ける。これも激戦必至であろう。そしてこの試合を切り抜けても準々決勝で東海大翔洋との対戦が予想される。ともに中部地区同士、相手を知り尽くしての戦いとなるが、インハイ出場チームを相手に接戦に持ち込み、勝利をもぎ取りたい。

同じく県総体8強の**浜松学院**は苦しい戦いを強いられそうだ。3年生が全員引退し、まさしく新チームで挑む。その中でも強靱なフィジカルを誇る**持原光里**、司令塔・**村上愛佳**、173cm長身センター・**佐藤佳乃**、そして1年生期待の星・**杉山琳々香**などセンスある選手を数多く擁するだけにいち早く新チームの始動が出来たことをポジティブに捉え、まずは確実に4回戦で予想される静岡女子との戦いに勝利し、1試合でも多く県武道館でプレーをして経験を積みたい。

WC県予選2年連続3位の**沼津中央**は毎回台風の日となり上位進出を続ける。県総体ブロック決勝で浜松開誠館と対戦、最後まで接戦を繰り広げて底力を見せた。この試合は結果的に県総体で開誠館が最も苦戦した試合であった。不動のエース・**文屋萌々華**は華麗なプレーの連続でまさに「華のある」選手、その美技に魅了された観客は会場で拍手喝采を送る。特にアウトサイドシュートやノールックパス、絶妙な合わせでオフェンスチャンスを決え間なく作る。今回も勝利の女神となれるのか、是非今年も県武道館のメインコートでプレーを見たい選手である。

清水西、浜松聖星も侮れない。**清水西**は3年生が一部引退したが、県総体8強入りの立役者・**小澤碧海**や1年時から多くの試合を経験、主将に就任しチームをまとめ上げる**牧田紗季**などの活躍で8年ぶりの県武道館切符を手にした。現校名で初の出場となる**浜松聖星**は県新人4位の実力派チーム。西部予選準優勝で臨んだ県総体は2回戦で東海大翔洋に苦杯、翔洋はそのまま一気に全国まで駆け上った。その悔しい思いを胸に今大会にすべてを賭ける。国体メンバー・**飯島桜**を筆頭に、天性のシュート感覚で得点を積み重ねる**松原明音**、高校に入って劇的にスキルアップした大器晩成型の**大場愛花**、そして恵まれたポテンシャルをコートで遺憾なく発揮する**坂口可恵**など厚い選手層を誇る。県武道館行きを賭けて対戦が予想される県新人3決の再戦・常葉大常葉戦は激闘必至、アップセットを起こすことが出来るか目が離せない戦いとなるだろう。

上記以外の注目選手として、**勝又彩**・**阿部莉子**（飛龍）、**佐藤優樹**（沼津中央）、**法月己歩**（沼津商業）、**花村歩美**・**伊藤寧々**・**森田七海**・**杉本弥月**（静岡西）、**市川礼菜**・**杉山花菜**・**杉本いちご**・**大石ほのか**（島田）、**鈴木好**（静岡女子）、**角本光**（浜松市立）、**内山さつき**・**大場裕月**（浜松南）、**石橋由衣**（西遠女子学園）、**中川楓**・**横山遥香**（浜松商業）などが思いつく。どの選手たちも聖地・県武道館で試合をするのにふさわしいスキルの持ち主である。

WC県予選の醍醐味は、完全トーナメント制の一発勝負、本当に一番強いチームだけが勝ち残り、全国の檜舞台を踏むことが出来るところにある。しかしながら今年も3週間に渡る長期決戦、何が起こるか分からない。まさに一寸先は闇である。選手たちは「勝利」の二文字だけを目指し、手を抜かずひたむきにプレーを続ける。我々にできることはその選手たちを支え応援することだけだが、一人でも多くの方々に会場に足を運んでもらい選手たちと一緒にその素晴らしい瞬間を共有してもらいたい。そして実際のプレーを見て、その感動を目にも心にも十分焼き付けて欲しい。選手たちの若さあふれる、熱い戦いを心から期待したい。